

昭和四十二年六月三十日招集(第2号)  
第二回市議定会定例会會議錄



館山市議会才二回定例会会議録(才一号)

昭和四十二年六月招集

一六月三十日(金曜日)

一現在議員三十名でその氏名は次のとおり。

一番吉	田勇治郎	二番石	井輝久
三番嶋	田石蔵	四番伊	賀夕朗
五番藤	田益治	六番磯	辺博
七番白	熊盛太郎	八番黒	川正
九番三	幣勇	一〇番西	村真次
一一番菊	井敏博	一二番小	柴孝
一三番山	田教宇	一四番遠	山ヨネ子
一五番石	井正	一六番五	十嵐昇
一七番江	田徳太郎	一八番安	西益男
一九番島	野茂樹郎	二〇番中	村有吾

二一番関 武夫 二二番小 沢恵太郎

二三番飯 田義男 二四番田 中祿郎

二五番田 村源治郎 二六番秋 山六三郎

二七番安 沢徳順 二八番望 月照正

二九番鈴 木市藏 三〇番山 口康

一議事日程(才一号)

第一陳情書

報告第一号 館山市民センター新築工事請負契約

に関する専決処分承認を求めることについて

第三報告第二号 昭和四十二年度館山市継続養老費繰越計画

の報告について

報告第三号 財団法人館山市開発公社に関する経

営状況説明書の提出について

第三議案第三十七号 昭和四十二年六月に及結する期末手当の

特例に関する条例の制定につて

第四議案第四号 館山市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定につて

第五議案第三十三号 館山市税条例の一部を改正する条例の制定につて

第六議案第三十四号 館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定につて

第七議案第三十五号 あらたに生じた土地の確認につて

第八議案第三十六号 あらたに生じた土地を市の区域に編入することにつて

第九議案第三十八号 館山市教育委員会委員の任命につて

第十議案第三十九号 館山市監査委員の選任につて

一法第二百一一条による出席説明員

市

長

本間

議

助役 小出武男

収入役 完戸貴

秘書課長 小倉澄男

人事課長 小沢正治

企画課長 谷貝茂生

庶務課長 山口 実

財政課長 長谷川 広治

市民課長 羽山 房雄

調査課長 高木 哲三

收納課長 夕田 俊一

農林水産課長 伊藤 幸太郎

商工観光課長 山田 俊康

土木課長 新井 重助

建築課長 池田 春雄

衛生施設課長

吉田耕一

保健衛生課長

綱島惣治

福祉事務所長

池田亮山

教育課長

押本禧逸

教育委員  
長

干場伊右工門

同  
学校教育課長

山根春夫

同  
社会教育課長

源間利一

消防課長

星野清之助

消防本部次長

石渡東

選挙管理委員会  
書記長

大嶋重義

監査委員事務局長

館石勘治

農業委員会  
事務局長

島山市治郎

診療所事務局長

野中圭太郎

本議会の事務局長 局長補佐 書記取員

事務局長

高梨清一

事務局長補佐

太田博雄

書記

兵藤恭一

同

香藤武男

同

庄司徹

同

錦織睦子

職員

島田守

出席議員二十九名

欠席議員一名

午前十時三十分開議

議長(吉田勇治郎君)

本日のお席議員数 二十九名

これより第二回市議会定例会を開会いたします。

本定例会の議案審査の必要上、地方自治法第百二十一条の規定による出席要求に対し、市間市長、小出助役、完戸收入役、池田課長、新井課長、伊藤課長、高木課長、砂田課長、池田所長、山田課長、小沢課長、小倉課長、谷貝課長、山口課長、長谷川課長、網島課長、吉田課長、大島書記長、錦石局長、畠山局長、星野消防長、石渡次長、野中事務長、押本教育長、千場課長、山根課長、源間課長、以上の者が出席する旨の報告がありました。

監査委員より三月乃至六月実施の監査結果が報告され  
ております。

これぞれお手元配付の印刷書により御了承願います。  
会議録署名員の決定を行ないます。

本定例会の会議録署名員に三番議員 嶋田石藏君  
ニ九番議員 鈴木市藏君以上両君を指名いたします。  
これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)

異議なしと認めます。よて決定しました。

会期の決定を行ないます。

本定例会の会期につき職会運営協議会の意見は本  
六月三十日より七月六日までの七日間というごと  
てありまして、おはかりいたします。

会期を七日間と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり。)

○議長（吉田勇治郎君）

異議なしと認めます。よって今期は三月三十日より七月  
一日までの七日間と決定いたしました。

この際おほかりいたします。

季節も炎暑の候となりますので、当分の間、略衣により  
会議を行ないたいと思います。

これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君）

異議なしと認めます。よって決まりました。

今日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。  
これより本定例会の案件につき市長の説明を求めま  
す。

（市長登壇）

（拍手）

。市長（本間 譲 君）

議案の説明をいたします。

本日ここに六月定例市議会を招集いたしましたので  
当面する諸議案の御審議をお願いするわけで  
ございます。

その前にちょっと申し上げたいんですが御承知のように  
降雨量の不足によりますかんがい給水源の枯渇など災  
害対策につきまゝていささか説明申し上げたいと存じます。  
御案内のように本年五月よりきざくのありました干  
ばつは昭和四十二年の干ばつに匹敵するほどの異常現  
象といわれております。

このために降雨量の不足による農地をはじめ給水源  
の枯渇は著しく農地被害状況は作付け不能の田が  
約百四十余町歩でございます。なおまた枯死寸前の

ものが百町歩余に及びまた本市宮城水道水源枯  
渇によつて航空基地 笠名 大賀 及び宮城周辺の給  
水人口約二千数百人、給水世帯約三百戸の飲料水  
の欠乏をきたし遂に最悪の状況に至りまいたので  
ここに応急対策とりたまいて市の防災計画に準  
じ緊急対策本部を設置したのをござります。

まず宮城の応急給水対策につきまゝてはその給水源  
を白浜町に要請いたまいたところ、同町では早速町  
会議員の全員協議会を招集されまいて満場一致  
で認めていただいたのでございましてまことにこの点に  
つきまゝては白浜町に打つて感謝にたえない次第  
でございます。その他民間協力による東電タンク車  
県水道局のタンク車、また鶴山航空隊のタンク車さ  
らに下志津陸上自衛隊の給水班の出勤を要請し一

日百五十トンを四五回給水を二十三日より実施してゐる  
 次第でございます。また農地の干害応急対策につきま  
 は急松市に干害対策本部を設置いたしまして、災  
 害を最少限に食い止めるために用水路の改良、用水不  
 コプ、井戸の掘さく等を行ないまして、応急の処置をい  
 たしたのでございます。これにつきましては、因果等の補  
 助をはじめ計数的経費がはつきりいたしませんので、これか  
 らとまり、次第次の議会です算を計上する予定でござ  
 いますので、その切はよろしくお願い申しに付る次第で  
 ございます。さて本議会に付議事件として上程する議  
 案は報告関係で三件、一般議案関係で七件ほどござ  
 います。

これらにつきまして概要を申しにげますと、報告関係で  
 は、市民センター新築工事に伴う請負契約に関する

専決処分の報告とこれらの予算が昭和四十一年度から昭和四十二年度までを二期とする継続費となっております関係から第一年度年割額の残額を次年度に繰り越ししうとするもので、それぞれ法の規定するところにより繰越し計算書を作成して報告するものでござい  
います。

また財団法人館山市開発公社に関する経営状態についての報告でございします。これは市が公社に支出している関係から、これが法人の経営の適正を期するため提出のあった報告書を議会に提出しようとするものでございします。

次に一般議案関係でございします。が今回の国会で可決され主務官庁の通達により条例改正の必要がございします市税条例の一部改正、健康保険条例の一部改正

かございりますが、これは住民負担の軽減と税制度の簡素化、合理化をはかうとすることをございます。

次に新たに生じた土地を市の区域内に編入することに  
ついでござりますが、これは過般県知事より本議会に諮問のあり、船舶形の公有水面一部埋め立てについて答申したのであります。これが完了し、果の竣工許可も出ましたので、確認及び編入を行なおうとするものであります。次に取員に付する期末手当の特例条例でござりますが、これも本市の財政事情を考へ合せて、本市取員の勤労意欲と事務能率の向上をはかうとするものでござります。

その他任命または選任関係といつて、まゝて教育委員、監査委員の選任の同意をお願いしたいと存じます。なお、この会期中に農業委員のうち、議会推薦により市

長が選任する等、識経験者の推薦をお願いいたした  
い所存でございます。以上簡単に御説明申し上げた  
いと存じますので、なにとぞようしく慎重な御審議  
をお願いいたし、存ずる次第でございます。

議長（吉田勇治郎君）

日程第一陳情書を議題といたします。

（書記朗読）

〇二九番（鈴木市藏君）

この陳情書によりましてよくわかるんですが、  
そういうことに考えておって八幡海岸ばかりでなく全  
市にわたって中止すべきだと思ふ。

同時に前副観光課長にこういうことを話したとき  
に、これは市で管理していいのだ。果が国有地を管理して

おるのだから、果が条例できめべきだということを聞いた  
んで、こういう陳情書があった場合、観光課長として果  
と打ち合わせをいたしました。が、この点を伺ってみたいと思  
います。

。商工観光課長（山田俊康 君）

お答えいたします。果の観光課あるいは青少年課、  
社会教育課あるいは果警察本部の防犯、青少年  
課等に、館山地区におきましては、キャンプ場あるいはヤン  
パリ達が立ち入らないように禁止してほしいという要望  
これは二年前から続けてありております。本年もそ  
れらに對してこの強い要望はしております。

果当局の諮詢ですと、果自身が関係課が十三課ほど  
ございまして、その関係課の意見調整がまだできない段階  
で、もう一つは、国定公園地域でもあるし、中に善良なキャン

パーもおろるのぞ悪のギャンパーの名のもとに善良なギャンパーを稀め出すことは困難だという意見もありまして意見調整ができていないで中一ヶ月ないけれども本年につつては一町村一カ所もギャンプ場がないということはいけなりのでギャンプ場を管理態勢を強めるという方法で運営してほしいという強い要望がございましてなお警察本部等とも連絡いたしましてギャンプ場にまゝは警官等も終夜回わつていただくようになりますし一応管理態勢を強化して進んでなお今後においても事故の起らないような態勢強化に努めて参りたいと思ひます。果ともそのように打ち合せております。

。二九番（鈴木市藏君）

（から）ばこの陳情書に打つて議員全部が賛成して

殊状した場合、市当局としてどのような考え方を  
持つておりますか。その点お伺いしたいと思います。

○市長（本間 譲 君）

この問題につきましてもただいま課長が御説明申し  
上げました通り、全く市としてましても頭痛の種  
です。しかしながらキャンプ場を指定した区域におか  
ないと勝手に方々やつてそれを追っ払うということ  
は困難だと思っております。そういう徳義を守らないうち中が  
いたずらをするとかえまして、これを廃止することには  
賛成です。しかしながらただいま申しにげましたように  
そういうことをするにはやはり果敢例かなんかでやつ  
てもらうことが必要だ。

館山市だけでどうかと思っておりますけれども、私はやら  
ない方がいいんではないかと思っておりますが、中にはいいところもあるし

こちらが指定して順守事項を見せてこれに従かな  
いといつてもよいてもらうという事でやつておりま  
もし木につてはこちらで買つて分けてやる。共同炊  
事場も作つてゐる。便所も使つてゐる。外出につては  
丁時以後は禁止して朝七時起床取り締りは専修  
大学の学生を五、六名お願いしてやつてゐるわけに  
ございますが皆さんの御意見であればそういう方向に持  
いきたいと思います。

○二九番（鈴木市蔵君）

だから議員が全部今日の陳情書を採択した場合当  
然反対です。その場合市当局としてこれを断固とし  
て廃止するとかやれるだけの自信があるかないかを伺  
つた。

○市長（本間譲君）

採択された場合については大に考えまゝその方向にやうなければならぬと考えております。しかしながらやはり県と話しをしまして条例の制定等につて検討してそれでもできないという事になれば本年度は間に合いませんが研究してその方向にもつていきたい、  
 二九番一鈴木市蔵君

館山市は警戒を強化するとう答弁があつたがその場合県が管理したときにその人件費ということと県で予算をくれますか。あつたはこのことを県の方に聞いたことがありますか。

高工親光課長（山田俊康君）

本年度もこのキャンプ管理事務所が県下で一番最初に設定されたのが館山市であります。

設定された過程につれて市民防衛のために管理者を置  
りて管理した方がいいのだという方向で推進してゐる。  
そうして市民たるものは県民であるのだ。なぜキャニ  
プということにつれて目を向けてくれないので。サレとも  
補助金位でござるのではなからうか。こういうことは今回もお願い  
してまいりました。お願いしてまいりました結果本年度からは今度  
作り出すキャニプ管理事務所における施設費の三分の  
一以内を補助する。そういうことで管理事務所の運営に  
要する費用の補助ということば県で考えておらない  
状況でござります。

○二番（石井輝久君）

登壇させていただきます。

（二番議員登壇）

○二番（石井輝久君）

私は先輩の鈴木議員と角度を若干かえて発言申しにいたします。

千五十九名の八幡地区の住民が署名をいたしましてキャンプ場設置反対に関する陳情をことの緊急性と重要性にかんがみまして今日の日程に加えてくださった議員各位に訂し、已民一同になりかわりましてここに謝意を表するものであります。また市当局に訂しましてはこの已民の要望を真剣に検討せうれんことを望むものであります。が二、三の点についで若干の指摘をしておきたいとござりますので、この際簡章に申しにげてみたいと存じます。

陳情書の趣旨に関しましては各位すでに十分御認識の通りでございます。先ほども市長室に本間市長を訪問した地条小学校のいたりけな児童が

ございまして。

「私たちの海を返してください」というおさな、純真な希望をつづった作文を市長の前で朗読し、聞くものの肥を打ったのでございます。

八幡の住民にとりまして夏の海は心のふるさとでございます。また幼児にとりましては心身鍛錬の場であつたのでございます。それがキャンプ場設置により全く八幡已氏、子供たちの立ち入る余地がなくなつてしまつた。この実情を考へていただきたいのでございます。ことに婦女子、老若を問わず昨年にありましてはみずあうの海であります。八幡の海浜を辟いてしまつておぼろげな朱の海をおめぐるを得なくなつたのでございます。

再び平和な八幡の海岸を取りもどきたいという今願が今や悲し、悲願ともいうべき願ひともなりつつ

あるということを見、児童の作文がものかたり、この陳情書  
 になったといつても過言ではないうでござります。

市当局に一考をわすうわしたいうでござります。

ビール人を割つてわざわざ海中に没しておもしろかり  
 セミプアではなしかと思われろいかかわり、女性の出現  
 キンポ場における青年男女の乱行、暴行、傷害など  
 枚挙にいとまない現象に接する状態を露見したのが昨年  
 であります。

これでは地元の善良な八幡の住民がとうとう近寄るこ  
 とができまうか。地域住民の悲願を率直に受け入れま  
 うよう、重ねて要望いたします。さつき申しにげま  
 した指摘いたした二、三を簡単に申述べます。

第一に県当局は昨年のすなわち昭和四一年の夏季  
 のキンポ場の諸問題につきまゝて検討会を實施した

結果、ヤニブ規制措置を果条例をすることを見合  
あせとりあえず昭和四十二年度におくは各市町村  
がそれぞれ独自の立場で条例を制定するなどの措  
置を講じたらよかうという結論をあらたように聞  
ております。

もし、しかりとするならば、いかなる理由で規制措置を取  
らないのか理解に苦いむのでございませう。昭和四十二年  
以降一十年、手をこまねていたといわざるを得ない。  
この点をまず指摘申し上げます。

第二に本陳情書の提出は去る十九日でございまし  
た。こえて去る二十日夏季の海岸対策を協議する  
会合が市で持たれたのでございませう。いかなる理由  
によるものか一言半句も本陳情書の提出の事実が  
明らかにされなかつたばかりでなく、奇怪を極くハ  
ハ幡

住民のキャンプ場設置反対に對する悲願が話題にも上つなかつたことを聞きあ然としたわけでございます。関係者には八幡住民に對する思いやりが一片だになつたのではないかということを疑ひ、この点を指摘するのでございます。

第三に観光対策と住民福祉が往々にて相反することを指摘したいのでございます。夏季におけるキャンプそのものがわるいわけはありません。観光客はほとんど誘致すべきでございます。

そうして、その観光都市にも見られる通り、住民は観光客の群の中に埋没して、もう傾向があることは、いふまでもないのでございます。それをもつて観光都市の特質、特性とすら考えることがあるのは、まことに、もつて遺憾千萬でございます。

これは非常にむずかしい問題でございますが観光と住民福祉は両輪の如く円滑に両立するような施策を講ずることはございまいやう。

賢明なる本間市長におかれましてはあらゆる方面を考慮してございまいやうかもしそのキャンプ場設置という観光対策の中で住民の福祉がそこなわれることがありますなうばこれこそ悲劇というべきところでございますまいやう。住民がかわいいかよそからくる観光客がかわいいか問題は簡単にいえまいやう。

以上簡単でございますが陳情書の趣旨の御説明とこれに関連する三点を指摘したわけでございます。なお本来ならば議会最終日に扱うべき陳情書を今日の日程に加えてくださいましたことに対して重ねて深甚なる謝意を表します。

明七月一日の海開きの前日のまうであります。なにと趣旨を汲み取り、電光石火のしかるべき対策を要望するものでございします。

。商工観光課長（山田俊康君）

指摘された三事についてお答えいたします。

県の方で四十一年の夏季対策におきます反響会におりてキャンプ規制がなされず四十二年度におきくは各市町村で個々に条例制定したうどうかというようば東京、神奈川あるいは東京周辺の地域に大々的にやてもらうなければどうしようもない。

もう一つは現在キャンプを張っておりま場所、これが国有地でありまして管理者は県でございします。市がやります場合には当然それらの国有地を市が借りて市の管理態勢下においてそれをせざるを得ない。

そういうことをするのならばやはり果自体が果条例の  
制定というところで強くお願いしてゐる次第でございます。  
そういうことから大原から内房外房を回わりまして一帯  
の市町村一丸となつて現在果に条例制定方を要  
望してゐる次第でございます。

二番目の夏季対策打ち合わせ会のごときにこれが諸題  
にのりなかつたという御指摘でございますが現実にはこ  
の際にも市といたしましては助役が出席して冒頭か  
らキャンプ対策等を話してあります。

これはどこか間違つてお聞きになつたことだろうと思ひます。  
三番目の観光対策と住民福祉というところでござります  
が先ほどもこれに関連していろいろ申してまいりました通り  
市の考え方というのは例をあげますと八幡にキャンプ管理  
事務所を設けたのも市民防衛のためというところで

あくまでも市民福祉ということを第一義に考えて観光行政を推進して参りたいと思ひます。

○二番（石井輝久君）

ただいま親切丁寧な御答弁をいただきました。まづ大体わかりました。

条例を制定して実際には空文化してしまふというおそれが多分にござります。しかしながら悪の温床とするのも過言ではない位の現況にあるこの問題を空文化するおそれがあるというこの理由だけで規制措置を講じない、この点につきまゝは十分御検討くださいますこととはよくわかりますがこの点についでさらに今後御研究をお願いいたしますと思ひます。

第三点につきまゝは一般論としてのギャンブル対策が諸題に上つたことは承知しております。ただ十九日にハ

幡地区から千五十九名にのぼる署名を取りまして、  
陳情書が提出されまして、この事実を会合に報  
告なさったかどうか、おそれくばさっていない。このように聞  
いております。それからさうに一般論としてのキャンプ場  
の問題は話題になったかも知れませんが、八幡の住民がこれ  
ほど困つてゐるという具体的事実が話題にのらなかつ  
たように感じております。私の第三点はそれを指摘した  
わけでございます。

第三点は今後の問題でございますし、市長さんはじめ  
御検討をお願い申し上げます。

〇高工観光課長（山田俊康 君）

十九日に陳情書が来たためにより活発にその意見が出たと  
思ひます。陳情書が出たということが二十日の会議に出なかつ  
たのではないかと、御指摘ですけれども、キャンプ場を設け

るとうことでは非常に反対がある。特に八幡、溪地区では  
 こういう運動までもあるというような言葉はそのときも  
 出たはずなんです。がその会議のときもその語句をいつ  
 ように記憶しておりまして、人々失礼ですけれども  
 どこか間違つて聞かれてゐるのではなかつたかというふうに私  
 感じております。

○二番一石井輝久君

くどい語句で恐縮でございますが私の発言内容が間違  
 つておりますればのらほど調査いたしまして訂正いたし  
 ます。ただ十九日に陳情書が出た事実は会議に出席さ  
 れた方々のごく一部分しか知らなかった。助役さんは知つて  
 おられたかどうか課長は知つておられたと思ひますが会  
 議に出席された方々に八幡から連合会長、鷗が貝、会  
 長代理の池谷ほか二十五七名から陳情書が出たという

ことを報告なさりましたか。

。高工観光課長（山田俊康君）

陳情書の披露はいたしません。八幡湊関係地にかうキヤニプ場設置反対の陳情書というふうな語句だけしかいたしませんで、たことを申し上げます。

。ニ番（石井輝久君）

了解いたしました。なお今後慎重に御検討願います。

。ニ番（関武夫君）

ニ九番議員ニ番議員の質疑で私がお聞きしようとしたことが大体尽されており、たださうに申し上げたいと思います。その問題は、ついで市当局がキヤニプの悪口打する面につつての認識がまだ薄いので、はなしかキヤニプの一般論を身に入れて現実の八幡海岸の

キャンプ場の悪の状態悪の集落であり悪の温床となる  
現在のキャンプ場はひとり八幡正氏ばかりでなく館山  
市の青少年の健全育成の問題について非常にブレ  
ーになっておるといふ二の事実を市当局が十分認識  
していただきたいわけでございます。

たまたま昨日市の青少年問題協議会の会長名で  
招集を受けてまいりて青少年相談員とか民生委員、公  
民館活動関係の方、学校の先生の代表、青年団、婦人  
会、母子推進員そういう団体の集まりがあつたわけで  
ございますがその席上でもこのキャンプ場の問題が出た  
わけだけれいかなから現実においては何論からいふとどう  
にもやりようがないのだといふことのようにございまいた。

ちやうど館山警察署の防犯課の青少年係長も見  
えておられましてあそこの取り締りに手を焼いてゐるのだ。

夜遅くはなつてからが問題なんで、これに對して制服を  
着た警察官が回つていつても「自分たちで果しんで  
いるのに何よ」というニテオに満たない女が食つてかか  
る。こういうのが実情でございます。従つて警察署とし  
てもあそこは閉鎖してもらうのが一番いいのだというふ  
うにいつております。果案例の問題でございますが果  
でもこの問題は一般論だけでやつていろいろではなく、果  
内のキャンプ場を現実に見たならば考え方が違つてくる  
のではないかと私は感じますので、今年の八幡海岸のキャン  
プ場の実情を果の車中に見せてやると、うことが果案  
例を制定させる上の一つのポイントになりはしないか。かよう  
に考えるわけでございます。

そういう点で後の方は十分手を尽していただきたい。

市長さんとりたてまつても八幡の方々は何う困つております

から観光課長の先ほどからの説明では市民を防衛する  
ためにあそこで作ったのだということご八幡の人たちの犠牲  
におしてほかの方が得をしておるという結果になるので  
現実に海岸地帯のキャンプ場というものは一般論でいわ  
れるような青少年が自然を樂いむものではない、レクレーシ  
ンではなということを頭に入れてお願いしたいと思ひます  
私は本陳情書採択につて満腔の賛意を表します。

議長（吉田勇治郎君）

おはかりいたします。

本陳情書を採択と決し、当局に送付いたしますことに御異  
議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）

異議なしと認めます。よつて本陳書は採択され関係

当局に送付することにした。  
暫時休憩いたします。

午前十一時

休憩

午後二時三十五分

再開

議長(吉田勇治郎君)

午後の出席議員数 二十六名

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第二報告第一号乃至第三号を一括議題に供しま  
す。

(書記朗読)

報告第一号 館山市民センター新築工事請負契約に

関する専決処分承認を求めることにつ

て。

報告第三号 昭和四十一年度館山市継続費繰越計算

書の報告について。

報告第三号 財団法人館山市開発公社に関する経営  
状況説明書の提出について。

。助役（小出武男君）

報告第一号について御説明いたします。

本件は市民センターの新築工事の請負契約に對する専決処分でございますがこれは自治法の百七十九条第一項の規定と申しますのは議会招集のりとまかなうときというところでございます。これをいたしたので次の議会に報告するわけでございますが本件につきましても三カ年間の継続事業として継続費の設定をしてある問題でございます。

四十一年度が初年度でございまして、たが非常に契約に手間  
取りまゝで混乱したものでございします。幸いにして御了解  
を得ております。予算の範囲内におきまして請負契約  
がございしたので急務、これが四十一年度の事業として完了  
するため、専決処分をいたしまして、安藤建設株式会社  
と一億九千万円でもって契約をいたしたわけでございま  
す。以上です。

報告第二号でございしますが、これもやはり本件に關係の  
ある案件でございまして、地方自治法第百四十五條第一  
項の規定と申しますのは、進次繰り越しをしたものに  
ついては五月三十一日までに算書を作つて次の議会  
に報告する、という規定でございします。

教育費の市民センター建設事業といたしまして二億  
千八百三十万の総予算をもつて、総経費が設定されて

おるわけでありましたが、四十二年度におきましては二千七百十万円の予算に對しまして二千二百八万七千円の支出に終りまいたので、残額千五百一萬三千円を翌年度、四十二年度に通次繰り越しをするという報告でございます。

○企画課長（谷貝茂生君）

報告第三号につきまして御説明申し上げます。

これは地方自治法二百三十一條並びに二百四十三條の三の第二項の規定によりまして、市から出資を受けける団体として、その団体は年度終了後、決算の状況を取りまとめ、次の議会の報告することになつておりますので、開発公社から議会の方に報告するということでございます。

まず決算でございますが、事業の内容といたしましては、

ほとんど市民センターの用地買収に終わっておりますので  
それに関連したもののだけが決算によるおるわけござ  
います。

収入の部といったいまは四十一年度は収益的なものだ  
けに終わっております。市からの九百万、その他千葉銀か  
らの借入金が三千三百五十八万と財産収入五千百六十  
円、不要財産の売り払いとして諸収入五百万円、これが四  
十一年度の収入になっております。

借入金の三千三百五十八万と申しますのは、三月の手形  
で借りましてこれを書きかえ、書きかえで参りまし  
たので一千万借りましてもそれを三回切りかえた場  
合は三千万という操作でこれが合計になっておりま  
す。なお支出の部につきましては事務費、十四万七千六  
百二十七円、財産費として基本財産としての定期預

金八十万、事業費につきまゝは市民センターの用地購入費と造成費、その他利子の償還等がおもなものでござります。

次に資金の種別表でござりますが、これは一カ年間の現金の流れをそれぞれ性格別に分類したものでござります。残額一万千六百四十円となっておりますが、これは翌年度に繰り越すものでござります。

市民センターの用地の事業だけにつきまゝて最後に説明資料として損益計算書、貸借対照表、財産目録、事業会計の欠損金の会計、それぞれ複式簿記、こういうこととごかけであります。

それから四十二年度の事業でござりますが、四十二年度の予算に関するものは公営企業法の規定するところにならうまいとおさめたわけでございまして、予算に関し

まゝでは項目別に条文式にかかげております。

第二条業務の予定量として土地の購入、土地の埋め立て造成等に分けて予定したわけでござります。以下細かく収入支出の面は項目によつて御了承いただきたいと思ひます。以上で説明を終ります。

議長（吉田勇治郎君）

おほかりいたします。

本報告案件を承認することへ御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）

異議なしと認めます。よつて本報告案件は承認と決定されました。

日程第三 議案第三十七号と議題といたします。

（書 記 朗 読）

議案第三十七号 昭和四十二年六月に支給する期末手当の特  
例に関する条例の制定について

人事課長（小沢正治君）

議案第三十七号について御説明申し上げます。

取員の期末手当につきましては六月は百分の百四と  
いうのが基本条例でございます。これを百分の九五と回  
わく支給したい。こういう方針で上程したわけでござ  
います。

これの対象となるのは一般取員、常勤の特別取、非常勤  
では議会の議員でございす。条例のルールからいた  
しますと十二月一日から六月一日がそれ。基準日ござ  
いますので今度の六月の場合には七月以降から  
六月一日までの六ヶ月間の在取期間に依りて三段階に  
分けております。六ヶ月完全に在取した場合に百分

百五十五になるわけでございます。まして三ヶ月以上六ヶ月未満の場合はそれの六割、三ヶ月未満の場合は三割ということになっておりますので、条文といたしまして規定した場合にこういうふうになるわけでございます。

○議長（吉田勇治郎君）

本案につきまして御質疑ございますか。

おわかりいたします。

本案を原案通り可決することに御異議ありません。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君）

異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されまゐりました。

日程第四 議案第四号を議題に供します。

（書記朗読）

議案第四十号 備山市議会委員会条例の一部を改正する

条例の制定について

(二二番 議員 登壇)

○二二番(小沢恵太郎君)

御説明申しに付ます。去る四月の統一選挙におきまして市議会議員の定数を三十名に減員いたしましたので、ここに常任委員会条例中、委員の定数を皆さまのお手元におくばりしてあります。議案の通り、第二条中第一項「総務委員会委員の定数九名」と「七名」に、第三項「文教民生委員会定数九名」と「八名」に、四項「建設委員会定数九名」と「八名」に改正いたしますことについて、六名の賛成者を得まして提案いたしました次第でございます。

よろしく皆さまの御賛成をたまわりたくお願い申しに付ま

す。(拍手)

○議長(吉田勇治郎君)

これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君)

異議なしと認めます。よく決定いたしました。

議案第三十三号乃至第三十四号を一括議題といたします。

(書記朗読)

議案第三十三号 館山市税条例の一部を改正する条例の

制定について

議案第三十四号 館山市国民健康保険税条例の一部を改

正する条例の制定について

議案第三十五号 あらうたに生じた土地の確認について

議案第三十六号 あらうたに生じた土地を市の区域に編入する

ことにつて

。調査課長（高木哲三君）

議案第三十三号につて御説明申し上げます。

このたび所得税法と地方税法の一部改正がございまして、それによる市税条例の改正でございまして、

十一年九条でございしますがこれは延滞金が日歩二銭から四銭、今までの条例では督促状を発した日より十日経過した日となつておりました。今度の改正によりまして納期限の翌日より一か月を経過した日と改められました。一か月を経過した日より日歩四銭ということになるわけがございまして、

ただし、たばこ消費税につては一か月たつても四銭にはならないというところでございまして、

次の一から四でございしますが各税目につての二銭の期

間を定めたものでございます。

二十四条でございますがこれは個人の市民税の非課税の範囲を規定したもので今まで二十四万円まで非課税でございましてそれがそれを二十六万円ということに改正になったわけでございます。

三十一條 これは市内に住居を有する個人または市内に住居を有しないが市内に家屋敷を有する個人に就ては均等割 年額四百円というところでございす。

次の二項でございすかこれは市内に事務所、事業所等を有する法人と市内に宿泊所を有するか事務所等を有しない法人や法人でない社団法人で代表者、管理人の定めのあるものにつて資本金の額につて今までは均等割によつておりまして今

度は資本金一千万以上超える法人につきまゝ又は四千円、それ以外の法人につきまゝ又は年額二千四百円ということになりました。これは標準税率を採用したわけでございます。

三丁一条の三項でございますが残数のあつた場合は均等割は月割で徴収するということでございます。

三丁四条「もくくはりの採取」ということでございますがこれは新たに入つたわけでございます。

三丁六条の三でございますがこれは所得税にかかると更正または決定事項の申告義務ということになつております。納税者の申告手続の簡素化をはかつたものでございまして所得税の確定申告を提出したものにつゞきは市民税の申告書を提出したものとみなすということでございます。

三十二条の四第一項でございますが「もしくは第三十二  
条の三」を削るといふことになっておりますが「市民税  
にかかる不申告な過料を規定したものでござりますか  
これはただいま説明したように申告が不要になつた  
ので削るわけでございます。

四十三条の三 延滞金の徴収について 延滞金の計算を  
規定したものでござります。

四十六条の三 十人未満の事業所において特別徴収ができ  
るというところでござります。これには市長の承認を受け  
た場合、六月・七月の場合、十一月十日、十一月から翌年  
の三月の場合には、翌年の四月十日までに納めればい  
いというところでござります。

四十六条の三 これはただいまの承認を市長に申請する事  
例を規定してあります。

四十二条の四特例の要件を欠いた場合十人未満でなくなつた場合にはその旨を市長に届出なければならぬ。その場合には承認の効力を失うと云うことでございます。五は承認取り消しがあつた場合はその次の月の十日までにそれまでの税金を払わなければならぬと云うことでございます。

これは法人税の修正更正決定があつたときの延滞金の計算方法でございます。

五十三条でございますが法人市民税の更正等の場合と不足税額のある場合の延滞金の計算方法でございます。

五十三条の二これは先ほど申しにげました四十六条の二から四十六条の五までの条例は給与でございますが五十七条の二は退職手当の場合の規定におきます五十三条の二

でございますが、退取手当の分離課税の不足額が生じた場合、善通徴収で延滞金の計算方法でございます。

七十三条の第二項でございますが、申請または申告をいなか  
ったことによる固定資産税の不足額及び延滞金の徴収  
延滞金の方が今までとかわりまいたので、ここに提出した  
わけでございます。

九十二条でございますが、身体障害者に付する軽自動車  
税の減免でございます。今までは身体障害者手帳だけ  
でございますが、戦傷病者手帳の交付を受けておるも  
ので、身体障害者手帳を保持していない人でも、軽自動車税  
の減免ができるというところでございます。

九十三条でございますが、たばこ消費税が百分の十五が百  
分の二・八に改正になりました。

九十八条、百三条、百七条、これは電気ガス税の特例で

ござりまして第九十七条は紙の製造用が加えられたりでござりまして電気がス税の税率でござりますが普通は百分の七紙の製造用には百分の五の税率という事でござります。

附則十三項でござりますがハ十三項と申しますのは航空機に打する固定資産税ハ十四項が営業倉庫に打する固定資産税の特例でござりますがそれに日本自動車ターミナル株式会社に打する固定資産の特例でござります。五年間二分の一の特例でござります。それから自動車、列車停止装置に打する固定資産税の特例は五年間二分の一重油脱硫装置に打する固定資産五年間二分の一軽減することになつております。

それから附則二十八でござりますがこれは退取手当が改正になりまして今までは一万年五万円でござりましたが

所得税法の改正になりまして今度は勤続十年までが  
五万円、十年から二十年、一十年十万円、二十年から三十年  
まで一十年二十万円、三十年以上が三十万という事になつ  
ております。このために六月一日以後適用になる関係で  
その前に計算された退職して税金を払った方には今  
度の六月一日以後の新法によりまして計算してそれを  
払い戻して頂くのでございます。

それから附則の施行期日、この条例は公布の日から施  
行する事になつておりますが、地方税法の本法の方で  
六月一日という事を規定してございますので、ここには公  
布の日からという事になつております。

ただし、電気ガス税につきましても、ガスの方が五百円ま  
が、免税でございますが、今度七百円まで免税額が二  
百円に上つております。関係で電気ガス税に上つては六

月の使用したガスの量、それによつて七月一日からこれを適用するといふこととござります。

附則第三條でござりますが施行日以前の税金に對しては従前の例によつて延滞金の計算をするし、施行日以後の市税に對しても延滞金に對しては新法を適用するといふこととござります。

二は法人市税に對してもやはり施行日以後の法人市税に對しては延滞金は新法を適用するといふこととござります。

三條の二市税に對しては四十二年度の市税から延滞金等につきましては四十二年度から新法を適用して四十二年度分は旧法によつて計算するといふこととござります。

四條は固定資産でござりますが固定資産も四十二年度

分から新法を適用して四十二年度分までは旧法を適用するとうことでございます。

軽自動車税につくもその通りです。

第五条が軽自動車税です。

第六条、たばこ消費税につきまゝ四月、五月納入してございすが百分の十五できておりますのでその分については四月分は三月三十一日まで、五月分は七月三十一日まで申告納付するとうことでございます。

第七条は電気ガス税につては七月一日以後の分につて新法を適用するとうことでございます。以上で説明を終ります。

。保健衛生課長（網島憲治君）

議案第三十四号につて御説明申上げます。

健康保険税条例の第十二条中、三万円を四万円にという

ことごとございます。が低所得者層の減税の幅が三万円であつたものを四万円に引き上げて基礎が十万円でございまして被保険者一人十万円までが低所得者ということに減税対象になるということにございます。これは四十二年度の国民健康保険税から適用するということにございます。

○庶務課長（山口実君）

議案第三十五号新たに生じた土地の確認につづく御説明申しにございます。図面をござらんただきます。これは箱形港を中心とした図面でございます。本件はここに斜線がございます。埋立申請地、この土地につて確認しようとするものでござります。斜線の即録分につては昨年六月千葉県知事より公有水面埋立につきまゝて当市議会に諮問があつたのでござります。それにつきまゝて本市はさしかへない旨答申をいたつてござります。

その後、理立をし、高尾造船株式会社が本年五月十日、葉県知事より竣工認可を得て、ただちに本市に届出があつたのであります。

本市も係員を出し、まゝ二日間、わたつて現地を確認したのでござります。

ここに地方自治法九条の五、第一項の規定でござります。これは「市町村の区域内に新たに土地を生じたとき、は当該市町村の議決を経て、その旨を確認し、都道府県知事に届けなければならぬ」という規定でござります。この規定によつて、この土地を確認し、知事に届けをしようとするものであります。

次に議案第三十六号、新たに生じた土地を市の区域内に編入することによつてでござりますが、地方自治法第二百二十六条第一項の規定でござりますが、これは

「市町村の区域の字または小字に編入しようとするときは市町村長は当該市町村の議会の議決を経てこれを定め地元に届けなければならぬ」という法の規定でございます。

ただいま説明しました二の斜線の部分七六一五平方メートルのこの土地は館山市船形字西に接している関係上、船形西に編入しようというものでござります。

議長（吉田勇治郎君）

今日の会議はこれにて延会いたします。

次会は七月三日午前十時開会とし、その議事は本日に引き続き残り議案の審議及び追加議案の審議といたします。

午後 三時三十分 延会

今日の会議に付いた事件

一議事日程に同じ

出席議員

吉田勇治郎

石井輝久

嶋田石蔵

伊賀多朗

藤田益治

磯辺博

白熊盛太郎

黒川正

三幣勇

西村真次

菊井敏博

小柴春

山田教宇

遠山ヨネ子

石井正

五下真昇

江田徳太郎

安西益男

中村省吾

関武天

小沢恵太郎

飯田義男

田中 禄郎

田村 源治郎

秋山 六三郎

安沢 徳順

望月 照正

鈴木 市藏

山口 康

欠席議員

島野 茂樹郎

